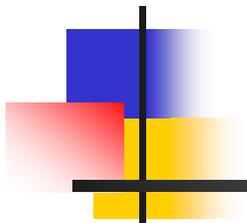


緊迫するイラン情勢と 国際石油・ガス市場への影響



第41回エネルギー懇談会

2012年2月3日(金)

(財)日本エネルギー経済研究所

小山 堅



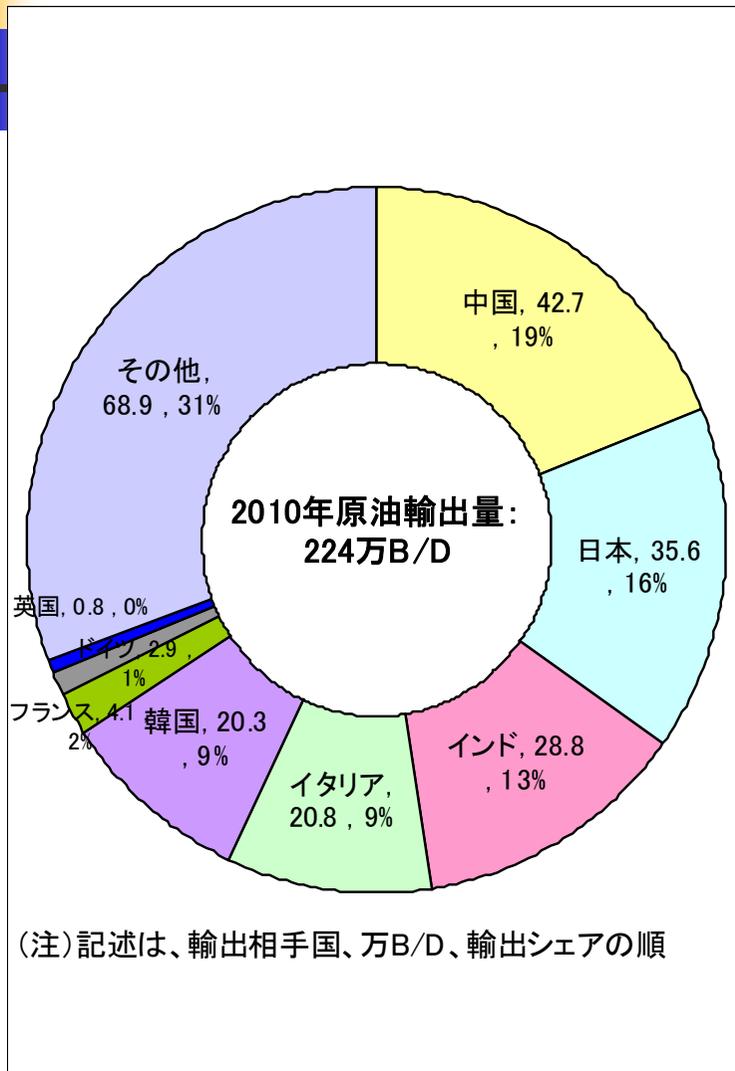
イランを巡る国際情勢の推移

- バーレーン情勢不安定化等へのイラン関与の可能性に関するGCCの警戒感
- 10月、駐米サウジアラビア大使暗殺計画疑惑の浮上
- 11月、IAEA報告書がイラン核開発の進展を裏付ける証拠提示
- 上記IAEA報告書を受け、欧米は対イラン制裁強化へ
- 11月29日、在イラン・英国大使館襲撃事件発生
- 12月1日、EUは対イラン経済制裁強化
- 12月以降の米国によるイラン中銀関連制裁強化
 - 14日・下院、15日・上院でイラン中央銀行と取引のある外国金融機関に制裁を科す「国防授權法」を可決
 - 12月31日、オバマ大統領署名で成立
 - 2012年1月、ガイトナー財務長官、日本・中国訪問
 - 2012年1月23日、EU、イラン原油の禁輸決定
 - 事実上のイラン原油禁輸への動き
- 並行して、周辺地域(ペルシャ湾岸・イスラエル等含む)で高まる緊張

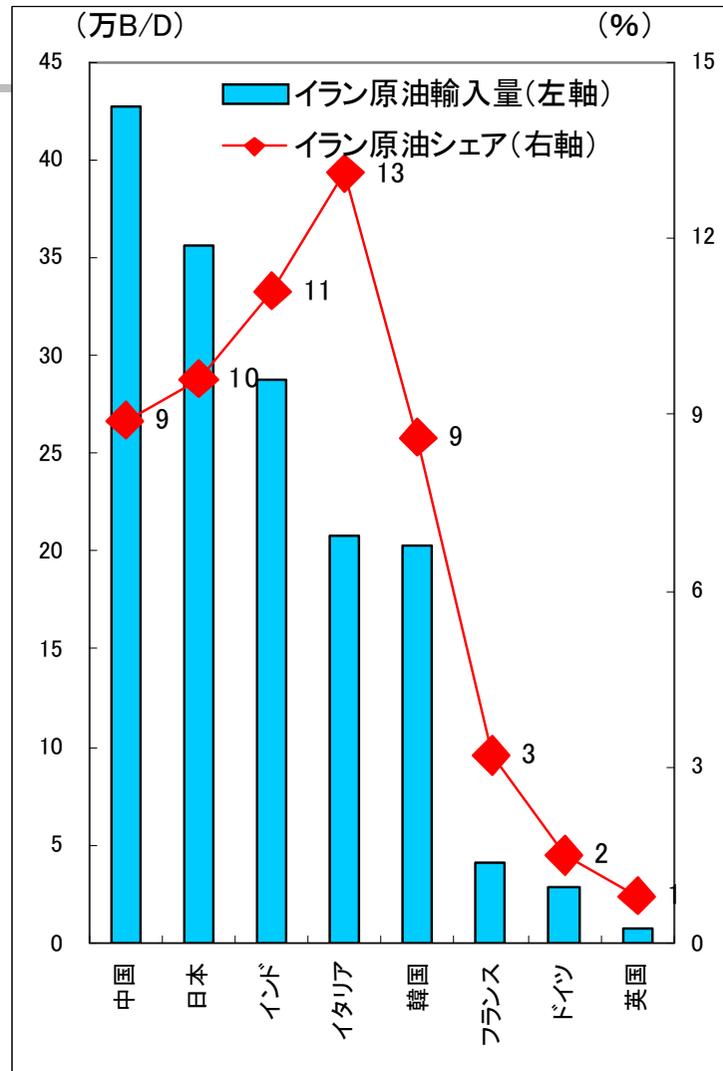


イラン原油輸出を巡る状況

イランの原油輸出相手先



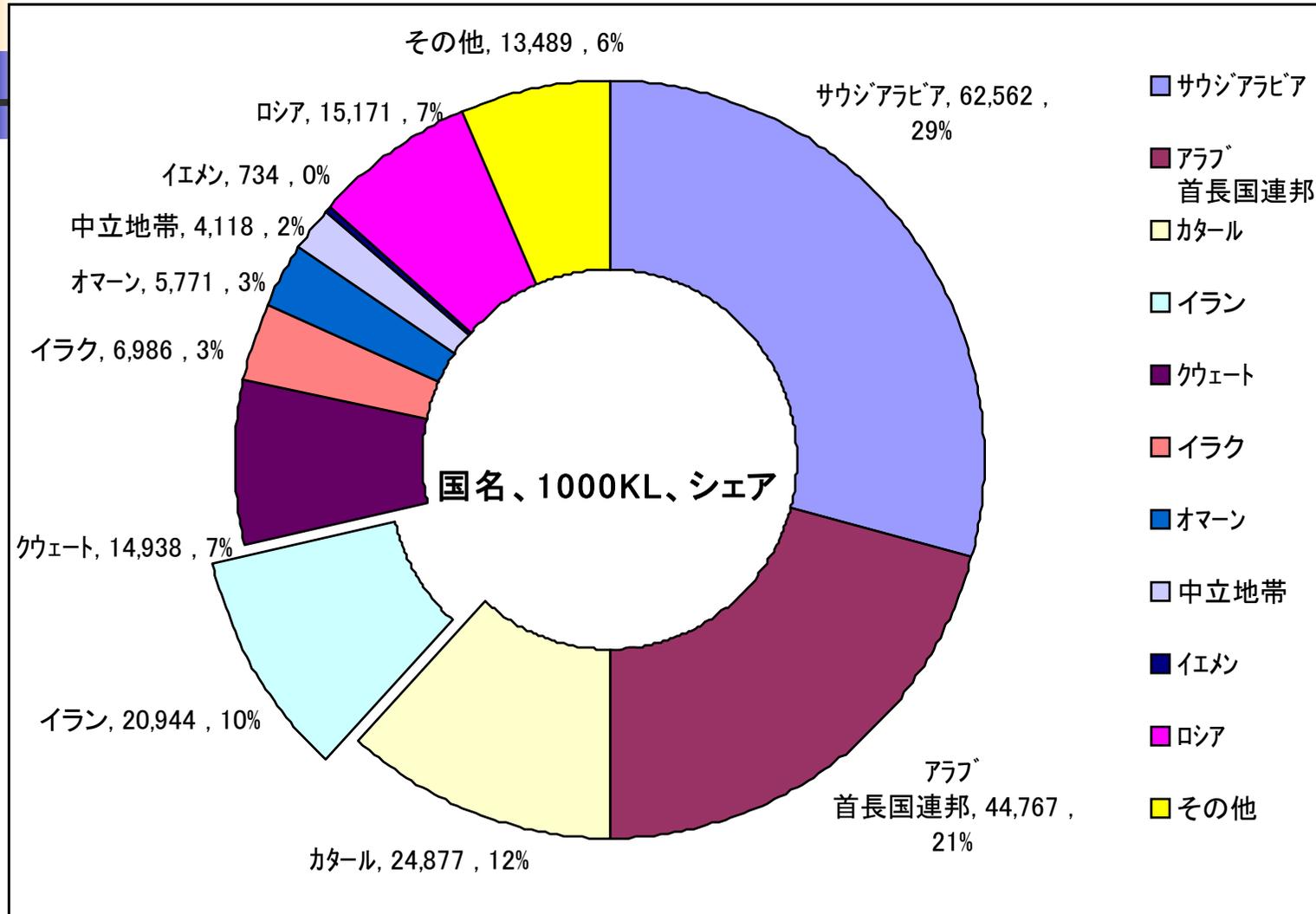
主要国のイラン原油輸入シェア



(出所)「World Oil Trade」他より作成



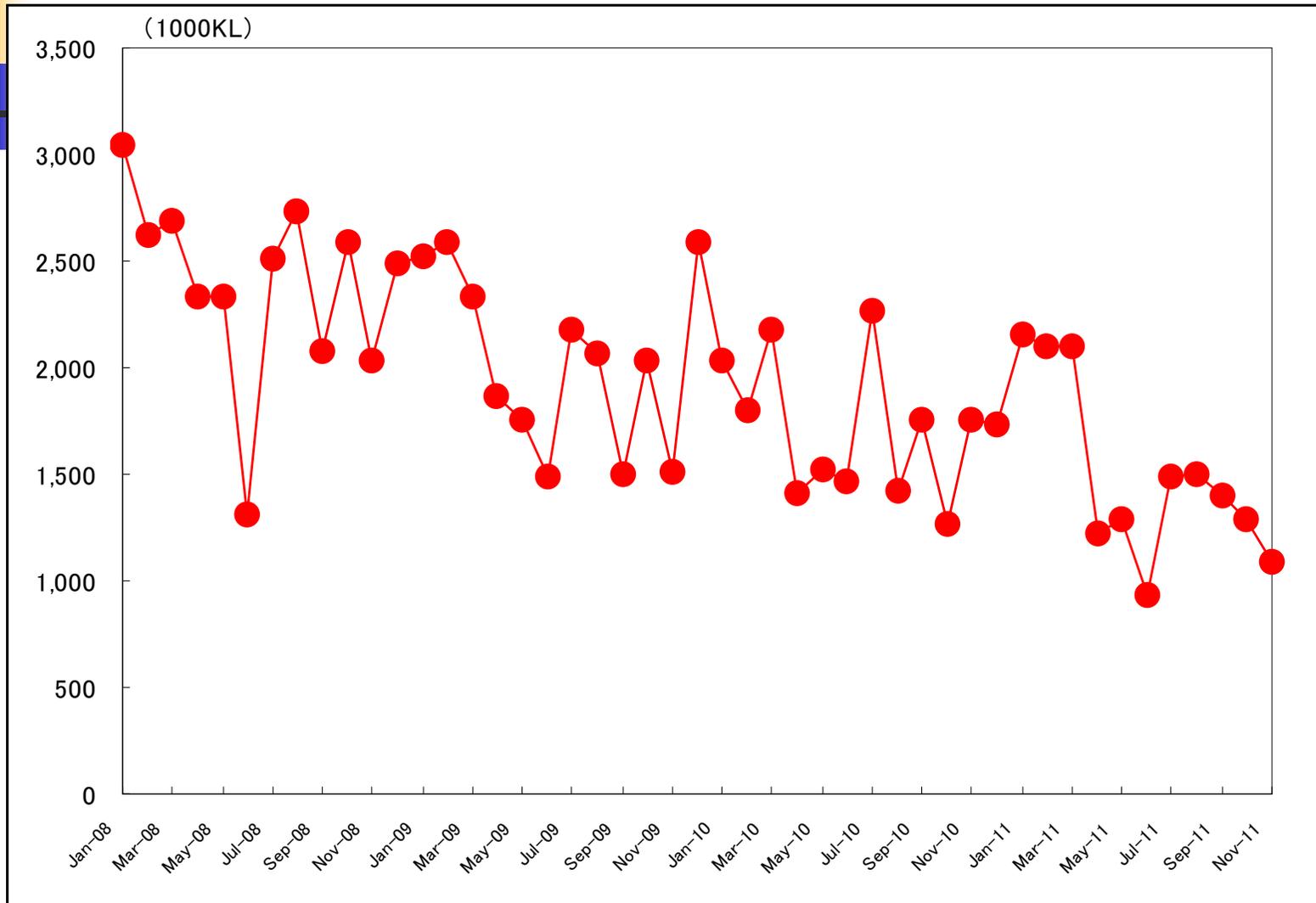
わが国の国別原油輸入(H22年度)



(出所)通関統計等より作成



わが国の月次イラン原油輸入状況



(出所) 通関統計等より作成



ホルムズ海峡概略図



- ・石油通行量: 1700万B/D超
(世界の石油生産の約2割)
- ・LNG通行量: 8260万トン超
(世界のLNG生産の約3割)

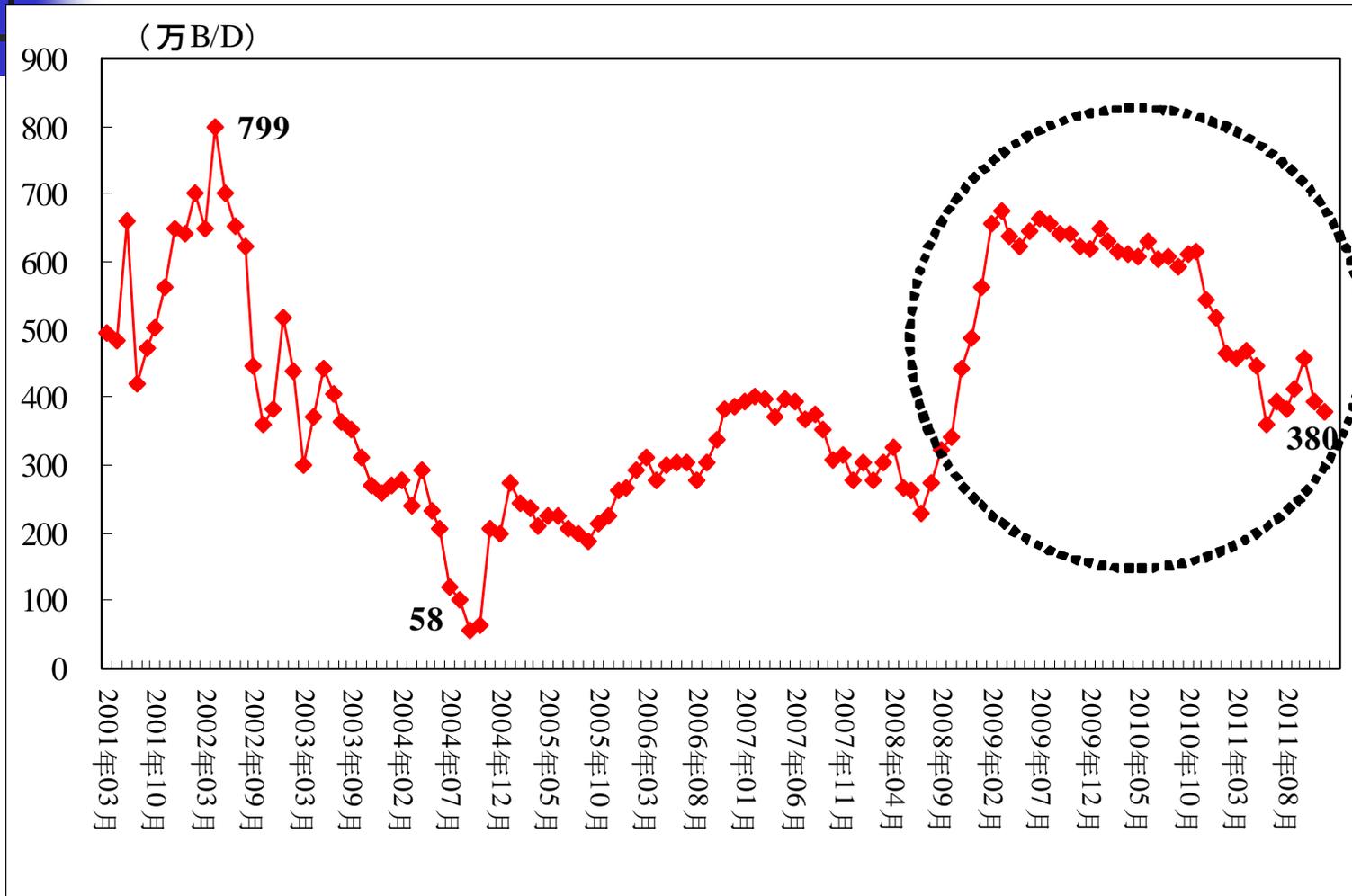
- ・ペルシャ湾向けおよびインド洋向け、双方に幅2マイルの通行路
- ・間に幅2マイルの緩衝帯





OPEC余剰生産能力の推移

生産余力はリビア減産等を受けて低下。2011年12月水準は380万B/D





OPEC生産と余剰能力

2010年以降、対OPEC需要はOPEC生産を超過

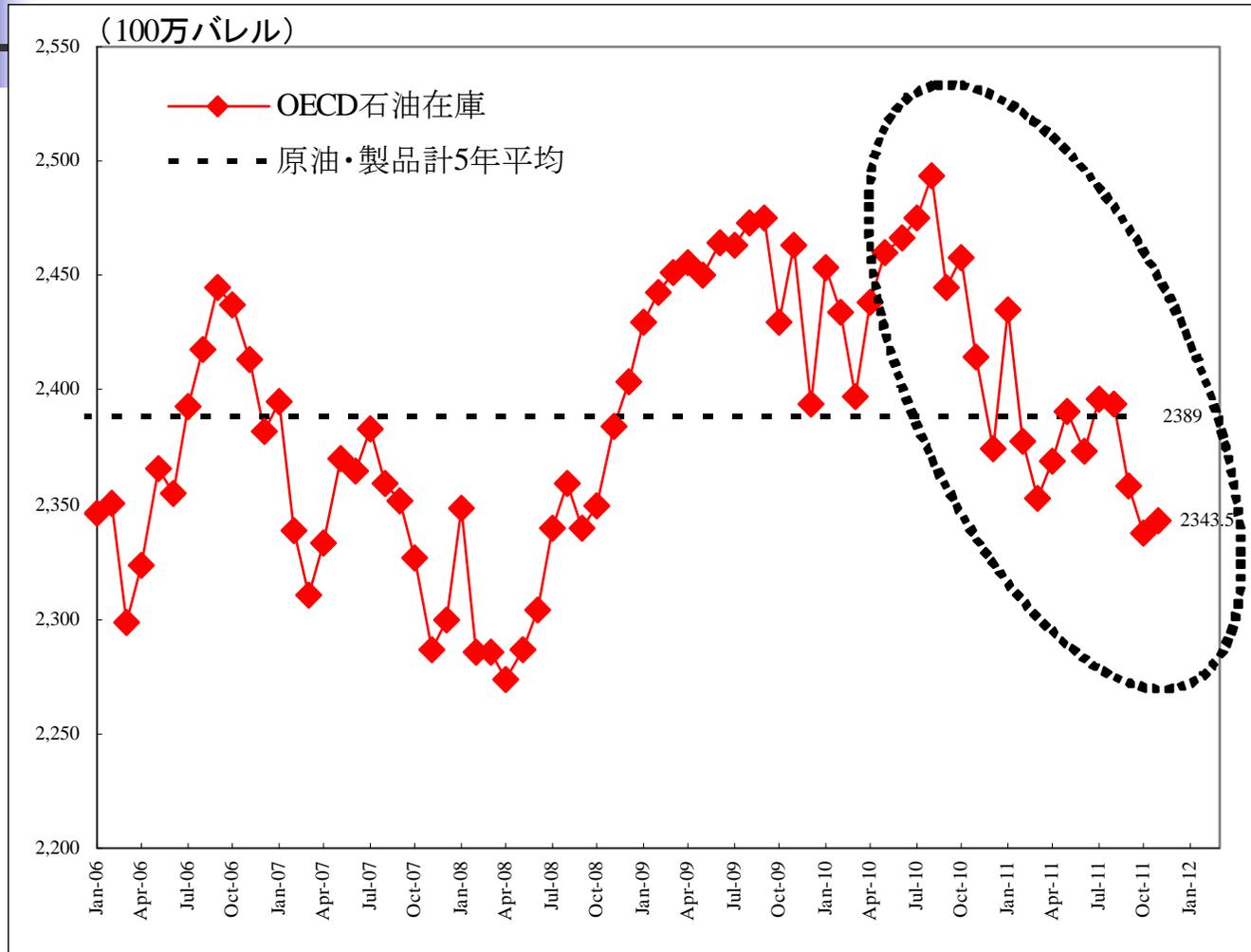
	原油生産能力 (1,000 B/D) (A)	11年12月生産量 (1,000 B/D) (B)	余剰能力 (1,000 B/D) (A) - (B)
アルジェリア	1,300	1,290	10
アンゴラ	1,900	1,750	150
エクアドル	510	480	30
イラン	3,510	3,450	60
クウェート	2,840	2,620	220
リビア	750	800	-50
ナイジェリア	2,480	2,060	420
カタール	900	820	80
サウジアラビア	12,000	9,850	2,150
UAE	2,740	2,580	160
ベネズエラ	2,550	2,500	50
OPEC11(イラク除く)	31,470	28,200	3,270
イラク	3,210	2,690	530
合計	34,680	30,890	3,800
中東6カ国計	25,200	22,010	3,200

(出所)IEA「Oil Market Report」より作成



OECDの石油在庫の推移

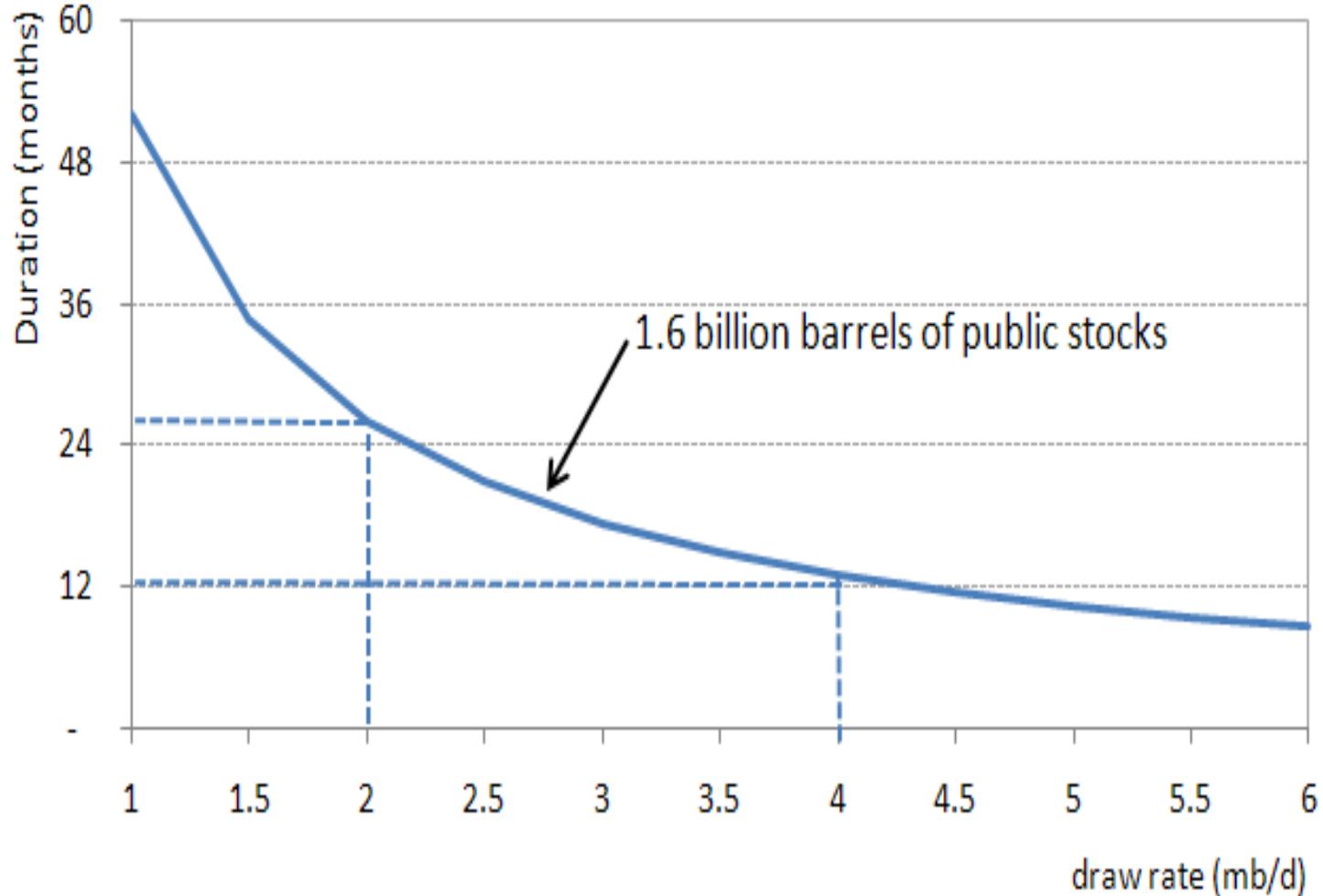
民間在庫は原油、製品ともに最近は低下し、合計で5年平均を下回る水準に



(出所)IEA「Oil Market Report」より作成



IEAの石油備蓄放出能力



(出所)IEA資料



2012年の原油価格をどう見るか

- 2012年の国際石油市場を左右する最重要のKey factorは、世界経済・国際金融情勢と地政学リスクの二つ。
- 大きな波乱無しとする基準ケースでは、需給はほぼバランスバ
ランス。 需給調整面で注目されるOPEC動向
- 世界経済や石油需給に関する不確実性の展開次第で2011年
後半以降の原油価格(WTI)には大きな差が生ずる
 - 「基準ケース」: 100ドル前後±10ドル (年平均値、以下同じ)
 - イラン情勢の緊張を前提として「高価格ケース」: 120ドル前後±10ドル
 - 欧州経済危機悪化を前提として「低価格ケース」: 70ドル前後±10ドル
 - 蓋然性: 基準ケース6割程度、高価格・低価格ケースは同等。
 - イラン有事の場合は、「高価格ケース」よりさらに大幅高騰も
- ブレントはWTI対比約10ドル高。日本の原油CIFも約10ドル高
- 大きな価格変動、高いボラティリティ持続は必至

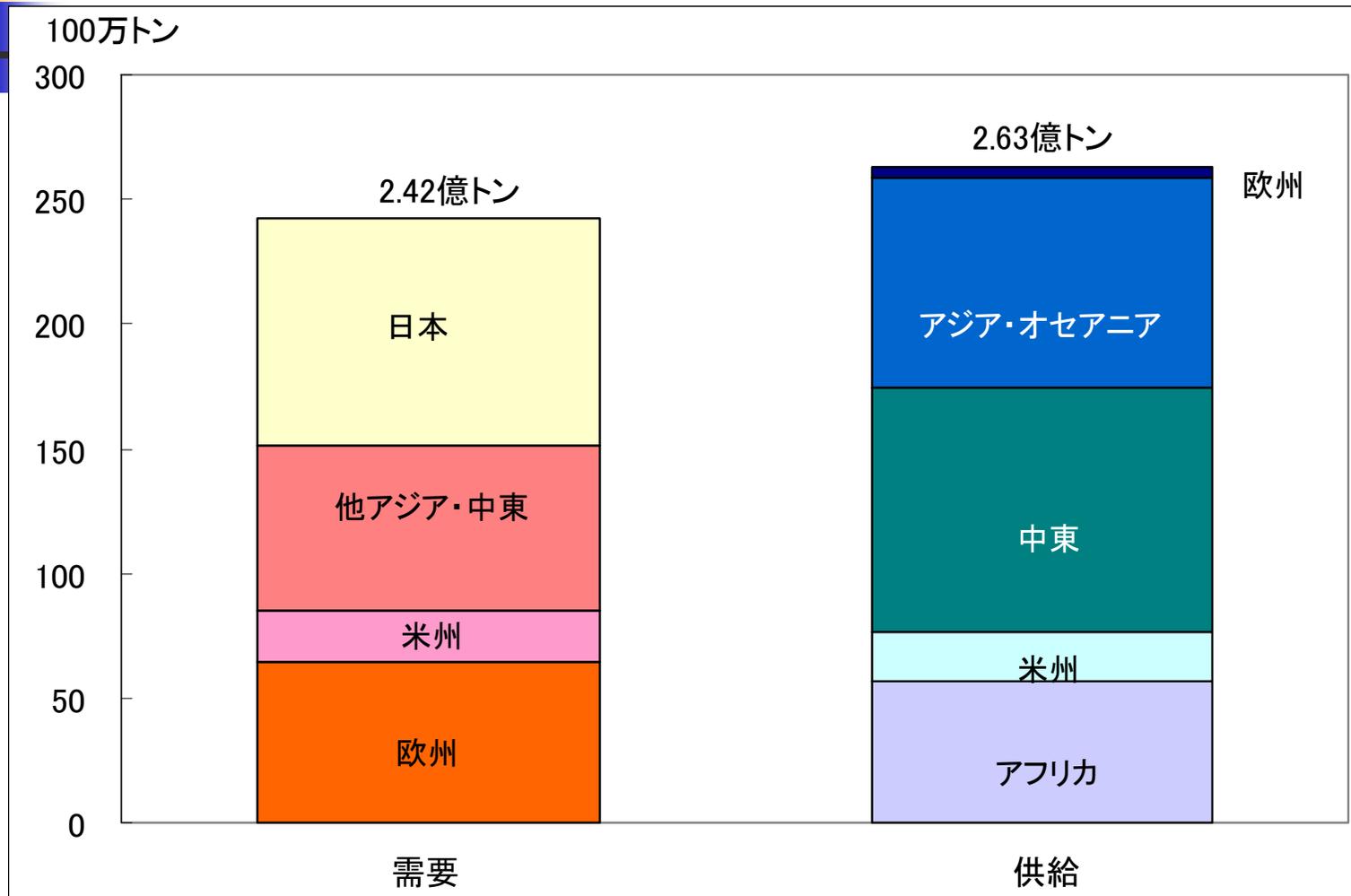


ホルムズ海峡のLNG通行

- 主要なLNG輸出国: カタール、UAE
- 両国のLNG生産能力は、7700万トン、560万トン、計8260万トン
- 石油との差・違い
 - 緊急時の国際協調メカニズム(石油の場合のIEA)なし
 - 国際市場の余剰生産能力(石油のOPEC余剰生産能力)なし
 - 代替輸送ルートなし
 - 消費国における在庫が限定的(日本の場合、20日分程度)
- 供給途絶は、価格高騰のみならず、物理的な不足発生へ
 - 日本のLNGは原油価格連動で価格決定。従って、原油価格上昇でLNG価格も上昇
 - スポットLNG価格も需給逼迫で大幅上昇へ

世界のLNG需給バランス(2012年)

- 世界の供給能力のうち、カタール・UAE合計で約3割相当



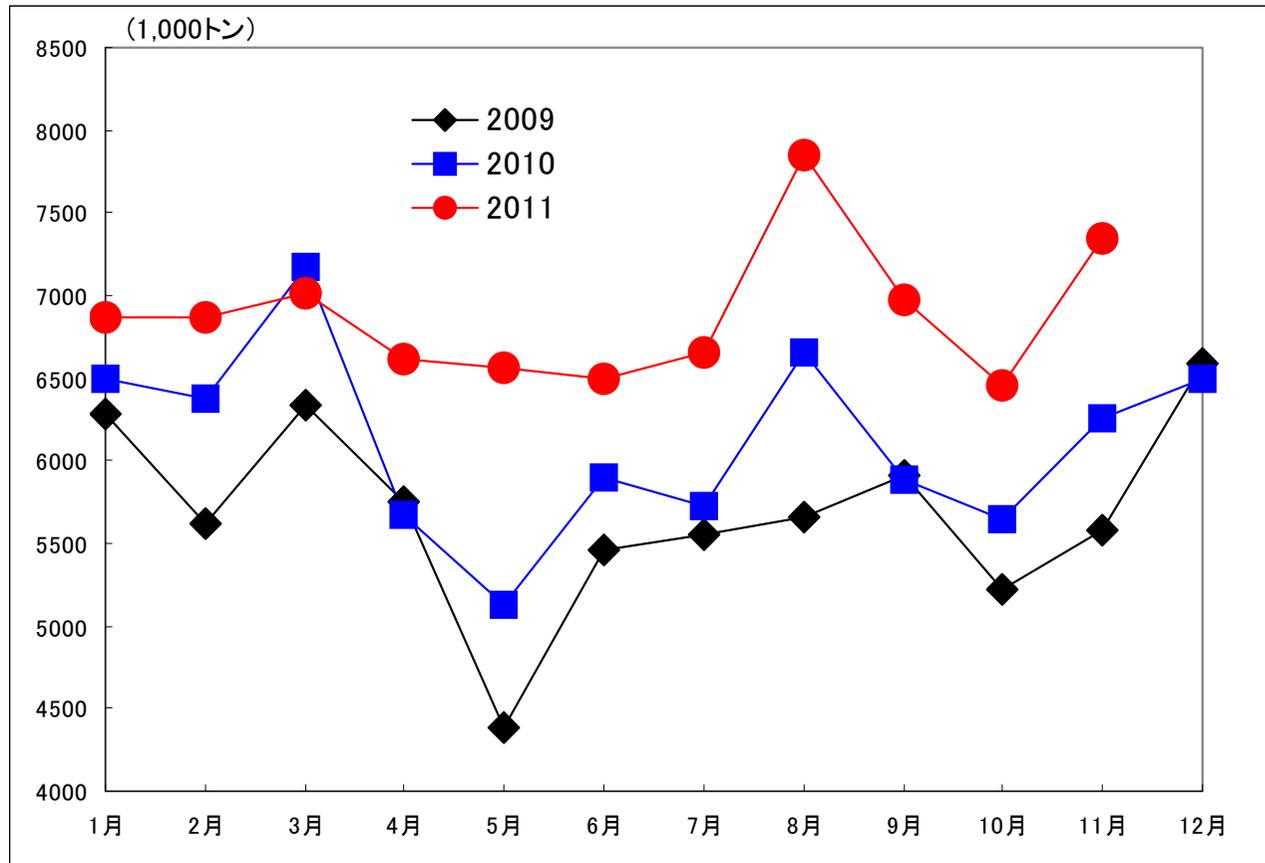
(出所) 日本エネルギー経済研究所



震災後の日本のLNG需要・輸入

- 2011年4-11月の輸入は前年同月比で約800万トン(17%)増加
- 2012年度の増分は、最大で約2000万トン程度増加する可能性も

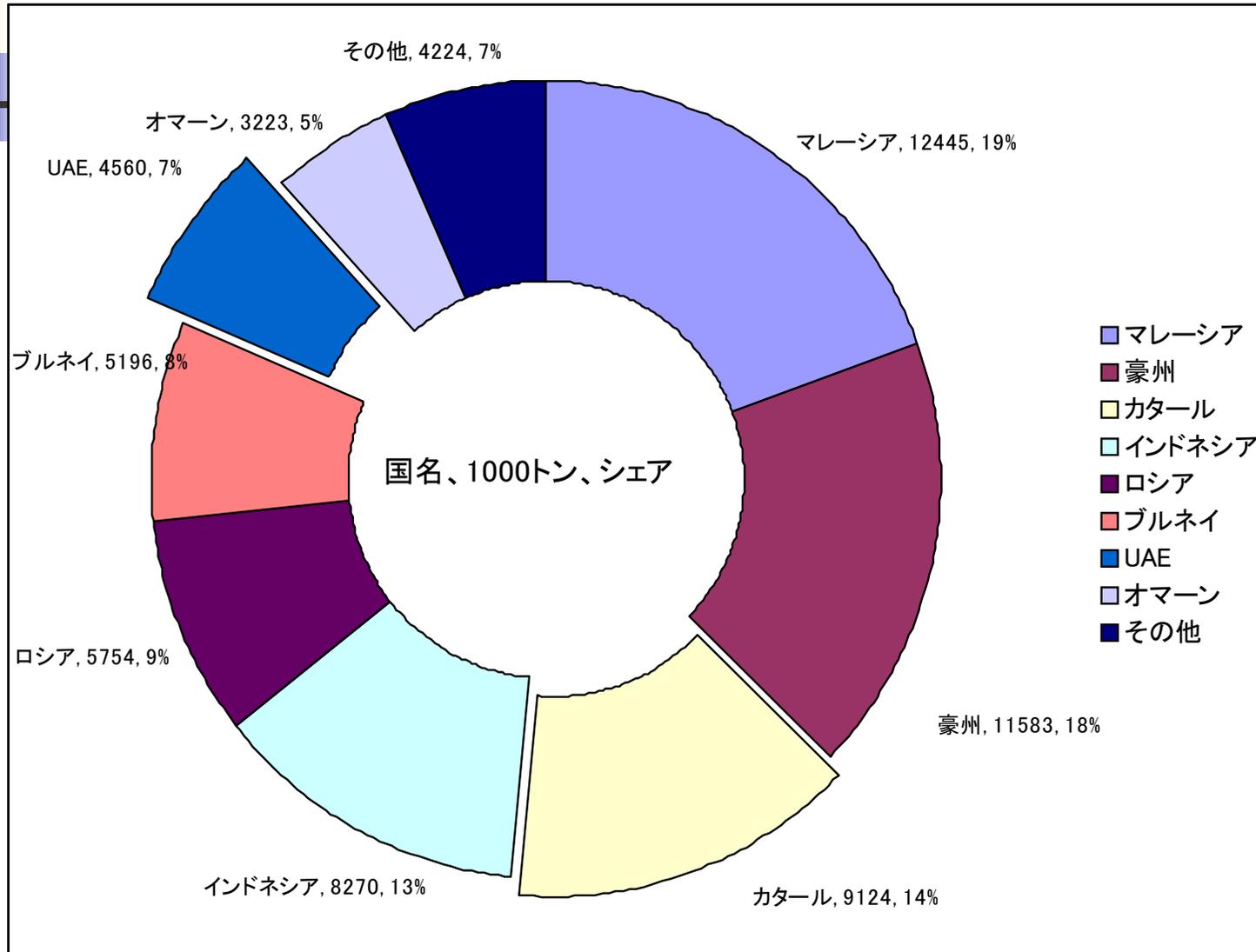
日本の月次LNG輸入動向



出所: 資源・エネルギー統計月報等より作成



日本の国別LNG輸入状況 (2011年1-10月)



出所: 資源・エネルギー統計月報等より作成



まとめ

- 予断を許さない、イランを巡る国際情勢
- 禁輸の動向次第で、国際石油市場には需給逼迫の圧力が発生する可能性
- ホルムズ海峡安全通行に支障が出るような場合には、国際石油およびLNG市場は大きく不安定化する可能性
- LNG・石油等の役割が高まるわが国にとって、重大な影響を及ぼす可能性も